

津田塾大学言語文化研究所主催
2019 年度講演会

講師：池上 嘉彦先生

東京大学名誉教授

日本語は＜悪魔の言語＞という言説をめぐって

文化的偏見、言語的相対論、言語・文化の多様性との関連での考察

日時：12月20日（金） 13：00～14：30

場所：津田塾大学小平キャンパス H315 小講堂

【講演概要】

ふと思い立って訪れたフランスのバスク地方。そのバスク民族博物館（Musée Basque et de l'histoire de Bayonne / Balonako Euskal Museoa）で、「悪魔のサタンはかつて日本にいた、そのあとでバスクの土地にやって来た。」と記された展示に接して、びっくり仰天したことがあります。一体どこから、どうしてそんな言説が生まれたのか？ 帰国後、図書館で文献を調べ、そして辿り着いたのは、かつて大航海時代、日本での布教を志してこの異国の島を訪れたイエズス会の宣教師たちのこと。彼らが眼にしたのは、風変わりな複雑な文字を持つ「ニホンゴ」という言語——これこそ、布教を妨げるべくなした悪魔サタンの仕業に相違ないと考えたとのこと。ここまでなら、他愛のない話と笑い飛ばしておけばよいと思えるのですが、実はこの言説の背後には途方もなく「邪悪な思い」が隠されていたのです。つまり、かかる「悪魔的」な言語を話す者たちは、すべからく武力でもって制圧、キリスト教に改めさせるべしという使命を生むという論理です。このような過激な文化的偏見もあったことを念頭に、そのあとは、日本語とはどういう言語なのかという難しい問いかけに、いくつかの真面目なコメントを述べさせていただきたいと思っています。

【講師略歴】

東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授、日本認知言語学会名誉会長。著書に、『英詩の文法』（研究社 1965）、『「する」と「なる」の言語学』（大修館書店 1981）、『ことばの詩学』（岩波書店 1982）、『記号論への招待』（岩波書店 1984）、『英語の感覚・日本語の感覚』（日本放送出版協会 2006）、『日本語と日本語論』（筑摩書房 2007）など多数。

* genbunken@tsuda.ac.jp まで参加申込をお願いいたします。

【申し込み締切：12月15日（日）】

津田塾大学言語文化研究所 Tel. & Fax 042-342-5153

ホームページ：<http://www2.tsuda.ac.jp/genbunken/index.html>

